畄 \mathbb{H} 和 雄 君

作 曲

花若く我汝が許に希望満ち今宵宿らんぱなかか、かれな、もと、のぞみみ、こよいやと 汚れなき心を慕ふ大いなる支笏の湖よりが かんこう きゅうしょう きゅう 旅の日ははや暮れゆきぬ夢に酔ひ夢にぞ歎かんだ。 漕ぎ出づる愛奴の漁舟の岸辺佇ち沁々眺む

忍苦して欣求むるところ得べくして得べからざりし ける しき使命に捧ぐ幸の今日にしあれ かの雄叫びよ創造の歴程

若き世の秩序を背負ふ洋々の日と倶にゆかなむホゥー ボー サラロヒボーサー ザー トータード ロ゙ー ヒール

> 葉脈の強きを讃ふ草々のたふれ生れて 決意する光眩ゆく手に取りぬ楡の嫩葉 乾坤に伏し祈るなり栄光あれ祖国の生命
> はんびん、ふ、いの、

春青み辛夷咲くなり逍遙の原始林蔭清くはのあおっこぶした。

甦生へる征覇のいくさ祝歌ふ吾等が双頬にたちか せいは はぎうた もれら ほ ほ 燦めきの星辰は語らひ微香る大地 囁い かん こうじゅう 立て歩め光の中を国民の重き責任負ひた。 まゆ ひかり なか くにたみ おも せめお

浄らかに燃え熾る刻継ぎ行かな来ん若人にきょ 失しな はじ高きが矜持護り来し伝統の法火